

授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名 (国語) 指導者名 (池田千尋 伊賀純子)

生徒の状況・課題の分析

| |
|--|
| <p>(第1学年)</p> <p>小テストや課題提出の予定を事前に知らせているため、計画的に取り組み、授業に臨む生徒が多く見られる反面、課題をやり遂げるために要する時間や覚えるまでの練習量がまだつかめない生徒もいる。書写の授業は熱心に集中して取り組んでいる。話し合いや発言への積極性を問う授業アンケートにおいては、約40%の生徒が、「あまりそう思わない」や「思わない」と回答している。コロナ禍のため、発表の機会が減っているものの言語活動の機会を設け、発言のしやすい授業を展開していくことが課題である。</p> |
| <p>(第2学年)</p> <p>授業に集中し、よく取り組んでいる。多くの生徒が意味調べや人物調べなどの調べ学習にも主体的に取り組めるようになってきた。漢字のテストに向き合えて家庭学習にもしっかり取り組めるようになってきている。毎週漢字の勉強会を行って来たことで参加した生徒は得点が増えるようになってきた。漢字のノートでしっかり練習している生徒も多いが、自分の目標とする進路に向け、主体的な学びができていない生徒もいる。コロナ禍のため、発表の機会が減っていることも課題である。</p> |
| <p>(第3学年)</p> <p>授業への興味・関心が高く、意欲的に取り組んでいる。授業の初めに毎時小テストを行っているため、授業前から机に向かい勉強する姿が見られた。文法や漢文においては自作の練習問題を使い、反復練習を行った。自信がついたためか、授業アンケートにおける達成感や充実感に対する問いの自己評価が高い結果となった。今後は得た知識を応用に生かし、学びを深めることや語彙を増やすことが課題である。</p> |

教科の目指す育てたい力

| |
|---------------------------------------|
| <p>コミュニケーション能力 表現力 問題解決能力</p> |
|---------------------------------------|

授業改善推進プラン (課題解決のための具体策)

| |
|---|
| <p>(第1学年)</p> <p>見通しをもって授業に臨むことができるよう、引き続き授業予定については事前に伝えていく。「わかった」「できた」がより多く得られるよう、前時の復習にも一層力を入れ、学力の定着を促す。漢字や確認の小テスト、漢字コンテストの実施を通して、小学校の漢字から振り返りを行い、基礎学力の定着や語彙力をつけるようにしていく。制限はあるが、クラス全体や、2～3人の少人数での話し合い活動を授業内に取り入れ、自ら学び考える授業を展開していく。タブレットなどの視聴覚教材を活用し、課題の解決を目指す取り組みを行う。</p> |
| <p>(第2学年)</p> <p>話し合い活動が制限されているので、評価材料が少ないが、主体的に自分の意見を発表できるような機会を増やしていく。たとえば書写では重点項目をよくなるまで、授業から学んだことが生かせるように促す。発表する前に自ら進んで学習する姿勢を養うために、ノートを活用させる。漢字の練習は、自分の能力に見合った内容を推進し、調べ学習も工夫しながら、自分に必要な知識を補充するように促す。</p> |

(第3学年)

毎時間の小テストは、継続して行い、語彙力、高めた、応用問題に、も対応で、
きるように、自分の意見と、学んで、発表し、と、へ、の、理解、優、め、的、用、問、に、も、対、
活用し、合、い、が、入、試、題、の、解、決、を、目、指、す、取、り、組、み、を、行、う、
る、こ、と、も、し、課、題、の、解、決、を、目、指、す、取、り、組、み、を、行、う、
る、こ、と、も、し、課、題、の、解、決、を、目、指、す、取、り、組、み、を、行、う、
る、こ、と、も、し、課、題、の、解、決、を、目、指、す、取、り、組、み、を、行、う、